

事業計画書
収支予算書

自 令和 04 年 4 月 1 日
至 令和 05 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹

住 所 宮城県栗原市若柳上畑岡大立85-3
電話番号 090-9631-1610

令和4年度事業計画一覧

	森林整備 保全事業	間伐材工房 運営事業	木質バイオマス 普及事業	木育等木づかい 普及事業
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 森林・山村多面的機能発揮対策事業(林野庁) 2. 新たなホダ木出荷先の確保、最低2,000本分を目指す 3. 楢木出荷の減少分収益補填の為、カラマツ自伐可能エリア分200本の伐採→出荷 4. 分収造林地(カラマツ・スギ)の前倒し契約終了にて、山主還元分増に向けたサポート 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「地域の森を知る教材set」として開発した新商品、「いわての森の恵み缶」&「いわての森や街に生きる樹木」の、小中学校への導入の推進 2. 岩泉町ふるさと納税返礼品需要の拡大へ向けたアプローチ。魅力的な品数の拡大&商品開発 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岩手県・宮城県の薪ストーブユーザーへのアプローチの強化にて、年度内プラス3件の獲得を目指す 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナ感染状況及びワクチン施主状況等見ながら、令和2年度実施した「遊び体験デモ」の有償版を、5施設での開催を目標に秋口～冬季期間実施したい。対象エリアは宮城・岩手
事業内容の詳細	<ol style="list-style-type: none"> 1. 岩手県岩泉町上野芸地域での原木しいたけ用ホダ木生産を、交付金を使い実施。交付金事業の最終年度にて、対象林地全域に手をつけてゆく 2. 納品先農家から、本年度出荷本数の2,000本減の連絡を受けており、新たな納品先を手当てしておかないと、収益に大きく関わってくる事が明白な状況での活動になる。あらゆる可能性を視野に、少しでも新規の需要先の開拓に努めたい。 3. 「2」の状況がスタート段階で判明した為、本年度はカラマツの伐採を実施してゆく予定である。自力で伐採後土場積み又は伐採木の寄せが可能な場所、且つ大型トラックでの搬出が可能な場所を設定。 4. ウッドショックで、山主のプラスをサポートしてゆく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「いわての森の恵み缶(木のたまご缶詰)」と「いわての森や街に生きる樹木(デジタル樹木図鑑)」が、計画よりだいぶ遅れ8月中旬に完成予定である。約30名の地域の高校生が制作したデザイン(学校名と制作者名を表示)ラベル80種類により、地域を前面に出した新商品としてアプローチしてゆく。開発に関わった若い学生たちのSNS等からの情報発信に加え、図鑑への学校推薦文寄稿も相談中にて、普及に向け全事期待値は大きい。最大限の力を注いでゆく 2. 返礼品需要は、オーダー数は少ないが着実に広く認知されつつあり、同じお客様より同じ返礼品のorderが入ったりもしている。本年度は、新商品である「いわての森の恵み缶」の他、質の高い新たな商品をラインナップに加えながら、order数拡大を目指してゆく。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宮城・岩手両県全域を中心に、薪ストーブユーザーへ果敢にアプローチをし新たな薪ユーザーの安定顧客確保に繋げる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本年度も、沈静→増加を繰り返す流れで進んでいるコロナの状況下ではあるが、今までのネットワークを駆使して「遊び体験デモ」の開催に繋げたい。
実施時期	通年：年間延べ日数約100日	2022年4月～2023年3月	薪作り・原材料保・薪の販路開拓は通年	2022年10月～2023年3月の中で5日間
実施場所	岩手県岩泉町	宮城県全域 岩手県全域	宮城県全域 岩手県全域	宮城・岩手県全域
実施予算	<ol style="list-style-type: none"> 1・2 : 4,050,000円 3 : 100,000円 4 : 50,000円 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2,900,000円 2. 100,000円 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 200,000円 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 200,000円
備考欄	<ol style="list-style-type: none"> 1. 林野庁補助事業 2. 自主事業 3. 自主事業 4. 自主事業 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自主事業 2. 自主事業 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自主事業 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自主事業

令和4年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書

令和04年4月1日から令和5年年3月31日まで

特定非営利活動法人フォレストサイクル元樹

科目	金額(単位:円)		
1 収入の部			
1 会費収入			
正会員会費収入	¥ 80,000		
学生正会員会費収入	¥ 0		
賛助会員会費収入	¥ 0		
		¥ 80,000	
2 事業収入			
森林整備保全事業収入 (ホダ木生産事業・原木&薪販売)	¥ 3,500,000		
木質バイオマス普及事業収入 (薪ストーブ販売&設置工事等)	¥ 1,100,000		
間伐材工房運営事業収入 (間伐材加工品販売・受注製作等)	¥ 2,500,000		
木育等木づかい普及事業収入 (ワークショップ。出前講座・イベント等)	¥ 100,000	¥ 7,200,000	
3 補助金収入	¥ 4,200,000	¥ 4,200,000	
4 寄付金収入			
当期収入合計(A)			¥ 11,480,000
前期繰越収支差額			-¥1,988,522
収入合計(B)			¥ 9,491,478
II 支出の部			
1 事業費			
森林整備保全事業支出 (ホダ木生産事業・原木&薪販売)	¥ 4,200,000		
木質バイオマス普及事業支出 (薪ストーブ販売&設置工事等)	¥ 600,000		
間伐材工房運営事業支出 (間伐材加工品販売・受注製作等・販路開拓)	¥ 3,000,000		
木育等木づかい普及事業支出 (ワークショップ。出前講座・イベント等)	¥ 200,000	¥ 8,000,000	
2 管理費			
人件費	¥ 744,000		
その他経費	¥ 700,000	¥ 1,444,000	
当期支出合計(C)			¥ 9,444,000
当期収支差額(A)-(C)			¥2,036,000
次期繰越収支差額(B)-(C)			¥47,478

令和4年度事業計画書①

特定非営利活動法人フォレストサイクル元樹

事業実施の方針

1. 森林整備保全事業

原木シイタケ用ホダ木の新たな納品先確保とカラマツの伐採・搬出

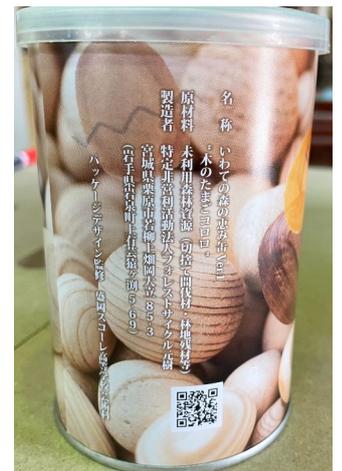
6年目を迎える岩泉での事業活動であるが、少なかった昨年との対比でも40%を超える納品数量の減少が確実である。新たな納品先の確保に加え、ホダ木以外の、岩泉での初めての施行として、カラマツ林の伐採搬出をしてゆく。ウッドショックで、材価の高い内に、できる範囲で伐採し搬出してゆく。同時に、昨年から実施している広葉樹大径木の、薪材用の伐採・搬出も今年度も継続してゆきたい。



2. 間伐材工房の運営事業

開発した新商品の、「地域の森を知る教材set」としての普及拡大

令和3年度から地域発信型新商品として開発を進めていた、「いわての森の恵み缶ver.1(木のたまご缶詰)」と、「いわての森や街に生きる樹木(デジタル樹木図鑑)」の新商品setが、予定を大幅に遅れて8月末迄の完成の目処がようやくついた。1番最初の試作品開発を含めると、木の缶詰の構想から7年が経過している新商品です。切捨て間伐材や林地残材等未利用森林資源の活用と地域活性化を目的に、当初から地域発信型新商品としての開発を進め、協力頂いた学校からのアドバイスにて、途中から学習用教材として、アプローチ先も小学校中学校の子供たちを対象に、学校に向けた商品として受け入れられる事を意識して開発。80種類の「木のたまご缶詰」と、その原材料となった80種類の樹木を掲載した「デジタル樹木図鑑」を、まず地元である、岩泉町の小中学校への導入実績を何としても作りたい。その後、岩手県内全域の小中学校へのアプローチに着手し、今後の法人の核となる商品に育ててゆきたい。



令和4年度事業計画書②

特定非営利活動法人フォレストサイクル元樹

事業実施の方針

3.木質バイオマス普及事業

薪の新たな販路開拓に特化

今年度も、まだ新型コロナ影響の増減が続いており、薪ストーブ普及活動は難しいとの現状判断をしている。ただ去年は、HP経由にて2台の新規導入があり、HP経由の問合せの際は丁寧に対応してゆくと共に、事業活動全体の中で告知してゆきたい。前年度は5件以上の薪の新規需要があり、今年度も昨年以上に新規顧客獲得に特化してゆく。増設した薪棚も、常時乾燥割り薪を50m³以上ストックできる体制が整い、年度内に5件の新規客獲得を目標に普及活動を実施してゆく。



4.木育等木づかい普及事業

一昨年好評を博した「遊び体験デモ」の開催への再チャレンジ

一昨年実施した、幼保施設における子ども達を対象とした「木製の遊具・玩具を使った遊び体験デモ」を、有償事業として最低3件の開催を目指したい。間接的には、開催施設での木製品導入のキッカケになることも多く、コロナ感染状況を見ながら秋口以降にアプローチをしたい。今までの活動の中で積み上げてきた、幼保施設とのネットワークを駆使して、岩手・宮城の両県の施設を対象にアプローチし開催できればと思っている。体験遊具に、輪投げボードやゴム銃も加えて、他所では体験できないたくさんの遊びのアイテムを持参して、木の魅力を発信して行きたい。

